

第1回青森県消防広域化推進計画検討会議 議事概要

1 日 時

平成30年8月29日（水） 13：30～15：00

2 場 所

ウェディングプラザアラスカ地下1階 サファイア

3 出席者

委員20名（代理出席を含む）

4 概 要

（1）あいさつ

青森県危機管理局長

（2）事務局から委員紹介

（3）座長選出

（4）議事要旨

① 事務局説明

・議題1 市町村の消防の広域化推進方針について

事務局から「資料1」に基づき、市町村の消防の広域化に関する基本指針の一部改正の内容について説明。

・議題2 新たな青森県消防広域化推進計画の策定について

事務局から「資料2」、「資料3」、「資料4」、「参考資料8」及び「資料5」に基づき、これまでの取組、今後のスケジュール、県内の消防の現状、新たな推進計画策定に当たっての留意事項等について説明。

② 各委員による意見交換（主な内容）

（委員）前回の広域化のときに一番問題になったのは、給料表の統一であり、人件費の負担が増加した場合も財政措置してほしい。また、様々な課題があると思われるので、十分に検討していただきたい。

（事務局）この検討会議の下部組織として、各消防本部の担当課長からなる部会を設置し、具体的に実情等を踏まえながら議論をしていく。その部会における検討結果等をこの会議に報告したい。

（委員）各自治体の財政状況に格差があり、消防の事務組合への費用負担が厳し

い。広域の消防は、地方公務員でなく国家公務員対応で、国の責任でやっていくことが大事と考える。

(事務局) 将来の本県の消防のあり方を見据えた上で、計画づくりを進めていきたい。また、必要に応じて国に制度提案をしていきたい。

(委員) 広域化により、消防活動面や消防指令センターの整備に掛かる経費面において効果が大きかったものと認識している。広域化の達成には協議会設置から5年程度要し、市町村の負担金の関係などは統合後においてもその調整が続いた。消防の広域化は、消防本部間のみの調整では限界があり、推進するためには県の積極的な関与と強いリーダーシップを求める。

(委員) 救急に関しては、救急業務の質の担保や標準化を図るため、ある程度まとまった地域で医師がコントロールしている実態がある。

(委員) 広域化により消防職員が早くきてくれるようになり、消防団からみて良かったと思う。

(事務局) 消防団については広域化の計画には含まれないが、消防本部の広域化が進んだその後においても、常備消防と消防団と緊密な連携を図っていくことが重要と考えている。

(座長) 本日いろいろな発言、貴重な意見が出された。消防職員の労働条件に関する意見や、計画策定に当たっては市町村長の理解を取り付けて進めてほしいとの発言もあった。今回出された意見を尊重しながら、部会で十分な検討をして、本検討会議に反映させていただきたい。